

# 全仏

ZENBUTSU



# 464

仏暦2543年12月（2000年）  
財団法人 全日本仏教会  
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



東京プリンスホテルで開催された理事会（関連記事2頁）

各種委員会開催

加盟団体訪問 全日本仏教婦人連盟

# 理事会開催

本会理事会在、去る十月二十七日午後二時から、東京プリンスホテルで開催された。三帰依文唱和に続いて、北條成之理事長を議長に、小林照希・松尾善雄の両師を議事録署名人に出し議事に入った。

## 議案第一号「平成十三年度予算編成の基本方針について承認を求める件」

北條議長より上程。倉澤豊明財務部長が（負担金は据置、事務所設備修繕費積立金費目の設置、全日本仏教徒会議開催対応の会計処理等）説明、原案通り承認された。

## 協議事項一「『この日』祝日制定について」（岐阜県仏教会提案事項）

北條議長より上程。加納博司理事（岐阜県仏教会常任顧問）より四月八日を『この日』として祝日に制定することの提案理由を詳細に説明された。（提案趣旨概要・昭和六十三年の第三十三回全日本仏教徒会議岐阜大会で決議されたこの運動が十分浸透でき得なかったが、昨今の青少年犯罪の急増に鑑み『この日』の必要性を痛感し再度推進する。）祝日の法制化は、現在の政治状況下では相当困難を伴うことが予想されながらも、

提案の趣旨には賛意が表明され、今後は岐阜県仏教会を核に署名運動を進めながら、次回の第三十八回全日本仏教徒会議新潟大会に再度提案していく方向で協議された。

## 報告事項一「ルンビニー園マヤ堂修復事業現況報告」

櫻井英幸国際文化部長より、マヤ堂修復設計案、会計報告、そして考古学調査報告書の作成状況等について詳細に説明された。

## 報告事項二「第二十一回WFB世界仏教徒会議バンコク大会について」

櫻井英幸国際文化部長より、本年十二月に開催される大会の会議概要等について詳細に説明された。

## 事務総局各部報告

①吉橋勝寛総務部長より報告事項一に関連した「第二十一回WFB世界仏教徒会議バンコク大会」の参加要項について説明、多数の参加を要請された。

②吉橋勝寛総務部長より「戒名（法名）リーフレット作成委員会」が発足し九月二十七日に第一回の委員会が開催され、今後の進め方を話し合い、次の十一月二十日の委員会で

内容の検討が行われるとの報告がされた。

③吉橋勝寛総務部長より十一月二十二日に築地本願寺で開催される「日本宗教連盟主催『第十七回宗教と税制シンポジウム』」の概要について説明され多数の参加を要請した。

④小島恵真同和推進部長より十一月十六日リーガロイヤルホテル早稲田（東京）で開催される「第十二回加盟団体代表者同和研修会」について説明された。

⑤渡邊宗徹社会部長より「第三十八回全日本仏教徒会議新潟大会」（平成十三年十月開催）の進捗状況を説明し各加盟団体の支援と協力を要請された。また、十二月四日に築地本願寺で開催が決まった終末医療と脳死・臓器移植をテーマとした教化セミナーの概要（講師 田宮仁飯田女子短期大学教授・佐藤雅彦大正大学講師）について説明された。

## 花まつりポスター作成中

本会では毎年、花まつりのポスターを頒布しておりますが、現在新デザインのものを作成中です。詳細は次号でお知らせします。

# 国際委員会

十月二十四日午後二時から、明照会館会議室で、本年十二月五日より十日にかけて行われる、WFB（世界仏教徒連盟）第二十一回世界仏教徒会議バンコク大会への参加方針検討のため、本年度第二回目の国際委員会が開催された。

松涛弘道委員長を座長に議事が進められ、はじめに吉橋勝寛総務部長より、今大会開会式（及びWFBよりの功労メダル授与式）出席とWFB役員との懇親夕食会を含む、大谷



明照会館会議室で開催された国際委員会

暢顯本会会長を団長とする研修ツアー実施の募集要項についての説明がなされた。

続いて櫻井英幸国際文化部長より、会期中に行われる総会、分科会、世界仏教徒大学開校式、理事会等へ、松涛弘道国際委員会委員長、西村輝成事務総長、櫻井英幸国際文化部長、入西智彦同次長の四名が出席する予定であることや、世界各地よりの参加者へ配布予定の、本会の沿革、目的、現在の事業内容等を簡略にまとめたリーフレット（和英文併

# 同和委員会



真言宗智山派宗務庁で開催された同和委員会

記）を現在作成中である等の準備状況が報告された。

各委員よりWFB役員との懇親会という企画成功のために、通訳の充分な手配を考慮することや、ルンビニー園マヤ堂修復事業の推進を見極めながら、将来のWFB日本大会開催への可能性も、前向きに考えていく必要があるのではないかな等の貴重な意見が出された。以上の参加方針を確認し会議を終了した。

十月二十五日午後一時半から、真言宗智山派宗務庁で、第五回同和委員会が開催され、第十回同和推進担当者連絡会について協議された。その結果、来年一月二十九・三十の両日、真言宗智山派宗務庁で、教団担当者による活動報告、それを受けての分散会、市内フールドワークなどを行うことが決められた。

**仏旗バッチ**  
2×4.5cm 500円  
**法輪バッチ**  
直径1cm 1000円

お申し込みは  
全日本仏教会  
財務部まで

## 加盟団体訪問

# （社）全日本仏教婦人連盟

今回は、社団法人全日本仏教婦人連盟を訪  
問し、島田喜久子理事長、林恵智子常務理事  
・事務局長にお話をうかがった。

（文責 社会部）

はじめに全日本仏教婦人連盟の沿革・日頃  
の活動についてお話をください。

日本の真に平和で豊かな国づくりのために  
は、仏教婦人の連帯と組織化が急務という気  
運が持ち上がり、昭和二十九年、第二回世界  
仏教徒会議永平寺大会の開催中に結成が宣言  
されました。連盟の目的は「仏教の精神によ  
って組織されている各種仏教婦人団体を全国  
的に結集し、婦人の立場から社会や家庭の中  
に深い生活の信条の基盤となる仏教的精神を  
培い、社会福祉に貢献する」ことです。

昭和四十二年に社団法人化され今日に至っ  
ています。月に一度の常務理事会で活動につ  
いて点検・検討されます。また年に一度大会  
を開催しています。その他に仏教の行事（修  
正会、花まつりなど）、年に一度の古寺巡り  
などを行い、機関誌『全仏婦』を年四回発行



手作りの「まけないぞう」

しています。  
ご参加されているのはどのような方々でし  
ようか。

当初より寺庭婦人だけではなく、間口を広  
く開き、在家でも、仏縁をお持ちの各界でご  
活躍の方々に多数ご参加いただきました。会  
員は個人会員が主です。ただ、インド・ブッ  
ダガヤに無料の医療施設「光明治療院」を建  
設する際には、宗派の寺庭婦人会にも結束を



→ インドブツダガヤ、日  
本寺に写経を奉納  
（一九九三、十二、八）



← 無料で医療を受  
けられる「光明  
治療院」

呼びかけ、連携のもと、三年の歳月の後に昭  
和六十年に事業を完遂しました。  
今、力を入れられている事業を教えてください。

女性ならではの特色を生かした五大事業を  
展開しています。それは、①写経運動。心に  
信仰心を芽生えさせる運動です。御写経に添  
えて寄せられた浄財は、（財）国際仏教興隆  
協会を通じて、「光明治療院」の運営資金と  
なります。②心の募金。「子供達に喜びや  
やさしさ、慈悲の心を教えましょう。」という  
思いのもとに、募金活動を行っています。

③タオル運動。阪神大震災の救援活動を行  
う中、被災者の心のケアの問題に気がつきま  
した。被災者のお年寄りの女性のアイデアで  
始まったこの運動は、現地NGOの協力のも  
と、全国の支援者から無償で提供されたタオ  
ルを被災地に送り、被災者が心を込めて手作  
業で象を縫います。それを現地NGOが収集、  
「まけないぞう」と名づけて一本四百円で販  
売。そのうち百円が作り手の被災住民の元へ、  
残りの三百円が義捐金に充てられます。

昨年のトルコ・台湾大地震の際にもこの浄  
財が送られました。手作業によるコミュニケ  
ーションで被災者同士に心の交流が生まれ、  
また支援者と被災者の間にも温かい心の交流  
があります。神戸に送ったタオルはすでに一



島田喜久子理事長(左)、林恵智子常務理事・事務局長

万五千本を超えています。出来上がった「まけないぞう」には作り手の個性が優しい思いとともに縫い込まれています。

④留学生、海外研修生に日本文化を。平成三年に(財)日経連国際協力センターからの依頼を受けて始められた、海外研修生との文化交流の会も、今秋で二十二回になります。華道、茶道などの研修を通じて各国の研修生との温かい心の交流が持てる大切な場となっています。また現在、海外からの留学生への援助を行っています。これを里親運動という形で再び展開したいと考えています。

全 仏  
⑤カンボジアに苗木を。里親支援は、以前

カンボジアの難民キャンプで行っていたことがあります。それが一段落し、次にカンボジアに学校建設を行い、クメール語の本を現地の子供たちに贈る運動を地道に続けてきました。こうした運動は他の団体も取り組むようになってきたので、人々の心よりどころとなるようにとの願いを込め、今年度は三千本の苗木を現地に送りました。

**最近の活動の中でお感じになることはありますか。**

災害で、被災地の子供達が疎開してきた学校に、阪神大震災の被災者が作ったタオルの「まけないぞう」を寄贈し、子供たちから被災した子供たちへメッセージを添えて、手渡しして励ましてもらうことを考えました。これは渡す方も渡される方も、お互いが心の癒しになるのではないかと考えてのことです。

ところが現状では、「宗教との関連」という点から、公立の学校では教育委員の方にこうした運動に理解を示していただくことは難しいようです。残念に思うと同時に、こうした活動に理解と協力を得られるように粘り強く働きかけを続けています。

**現在どういったことに気をつけて活動を行っていますか。**

基本になるのは、「活動する自分も癒されている、救われているということ」を忘れな

い。」ということ。どのような活動をしていても、上から下へ提供するという気持ちで行ってはいけない、一方向の支援になってはいけない。同じ目線の高さでお互いに交流したいと思います。また場合によっては、自分の善意が相手に迷惑をかけるかもしれないということも忘れてはいけません。金額の多寡ではなく、自分たちのできる範囲で心が通じ合う活動をしたいと思います。

毎月二枚、新聞広告の裏に美しい字で、心を込めて写経をして送ってくださる方がいます。また新聞の記事を見て、お母さんが癌の手術で入院するので「まけないぞう」を分けて欲しいと真摯な願いを持って連絡してくる人がいます。活動を通して様々な世間が見えます。

**全日本仏教会に対する要望がございましたら教えてください。**

仏教にご縁のある若いご婦人が、青年僧侶と活動を共に参加するなかで、やがて自然に私たちの活動を担ってくださるような橋渡しをしてくださると幸いです。

また、お寺と直接関わりを持たない一般の人たちにもっと目を向けて、「心の癒し」などを訴えたり、現代という時代に合った、さまざまな運動のできるきっかけや場所を提供していただければ幸いです。

# 世界仏教音楽祭

九月二十九日午後六時半より、東京国際フォーラムを会場に、第十回世界仏教音楽祭(仏教伝道協会主催、全日本仏教会・東京都仏教連合会後援)が、仏教伝道協会設立三十五周年を記念し開催された。

コンサートは三部構成で行われた。第一部「天楽」は斎藤瑛美氏作曲、演奏による「菩提樹」から始まり、「ふるさと」「赤とんぼ」など、なじみ深い童謡をアレンジし、第二部「お悟り」では、新曲の組曲「釈尊伝」が豊かなエレクトーンのリズムの中、披露された。

沼田智秀仏教伝道協会会長の挨拶に続く第三部「み教え」では、『仏教聖典』の朗読が行われ、宗派を超えて歌えるやさしい仏教音楽をめざして作曲された新曲「六波羅蜜」が披露された。参加した多くの聴衆は、壮麗かつ郷愁に満ちた調べに魅了されていた。



東京国際フォーラムで行われた  
第10回世界仏教音楽祭

## 埼玉県仏教徒大会

第二十三回埼玉県仏教徒大会が、「はるかなる佛道」を大会テーマに、十月三日午前十時半からJR川口駅前のリリア・メインホールを会場に、平日にもかかわらず溢れんばかりの参加者を集めて開催された。

萩野映明専務理事の司会で開会され、江連俊則会長を導師に法要が営まれ、式典に引き続いて作詞・作曲・タレントの多彩な活動で活躍されている小林亜星氏による「歌は世につれ、世は歌につれ」をテーマにした記念講演が行なわれた。

アトラクションとして川口市の共生幼稚園児の記念演奏と地元川口の伝統芸能「川口初午太鼓」が披露され閉会した。

## 長野県仏教徒大会

第四十六回長野県仏教徒木曾大会が「こころ豊かな世界にしよう」を大会テーマに十月二十一日午前九時半から、秋晴れの木曾御嶽山麓の上松町勤労者福祉センターを会場に、

県内各地から多くの僧侶・檀信徒が来場する中で開催された。長野県仏教会会長の石塚慈悦善光寺大勧進大僧正を大導師に法要が営まれ、式典に続いて花園大学副学長(次期学長)の西村恵信師が「仏教徒として生きる道」をテーマに記念講演をされた。最後に大会宣言文と次期開催地を発表して閉会した。

## 事務局録事

十一月

- 六日 福島県仏教会研修会出席
- 九日 法律相談室
- 十三日 局内会議
- 十五日 大阪府仏教徒大会出席
- 十六日 加盟団体代表者同和研修会
- 十七日 総本山長谷寺晋山祝賀会出席
- 二十日 戒名(法名)リーフレット作成委員会
- 二十二日 日宗連宗教と税制シンポジウム
- 二十八日 世界宗教者平和会議記念式典出席
- 二十九日 局内会議

## 哀悼

岩崎宗秀師(全仏元副会長)

十一月九日遷化 八十四歳  
元東京都仏教連合会会長  
元臨済宗大徳寺派宗会議員